

平成 22 年度のエネルギー使用量等について報告します

市の施設では、環境負荷低減のため、エネルギー使用量等の抑制に努めています。平成 22 年度は、一部増加した項目もありましたが、全体的に二酸化炭素排出量を削減できました。今後も、「野洲市地球温暖化対策実行計画」に基づき、省エネルギー・エコライフを推進していきます。

項目	平成 21 年度実績	平成 22 年度実績	平成 21 年度との比較
ガソリン使用量	40,552 ℓ	33,481 ℓ	- 17.4%
軽油使用量	8,024 ℓ	8,432 ℓ	+ 5.1%
灯油使用量	49,083 ℓ	40,252 ℓ	- 18.0%
電気使用量	5,135,364 kwh	5,106,716 kwh	- 0.6%
ガス使用量	90,649 m³	94,936 m³	+ 4.7%
太陽光発電売電量	26,480 kwh	31,245 kwh	+ 18.0%
二酸化炭素排出量	3,224 t	3,205 t	- 0.6%
紙使用枚数	9,891,707 枚	8,824,840 枚	- 10.8%
水道使用量	65,150 m³	63,398 m³	- 2.7%
可燃ごみ排出量	102,622 kg	112,271 kg	+ 9.4%



◆総務課
☎ 587 - 6038
FAX 587 - 4033

正しく分けられていますか？



※汚れたプラスチック容器類は燃えるごみに出してください。

ごみはきちんと分別し、ルールを守って出しましょう

【ごみについてのよくある質問】

- Q：旧の市指定ごみ袋は、いつまで使えるのですか？
A：平成 24 年 3 月末までの使用期限となります。
- Q：野洲クリーンセンター（中間処理施設）への直接搬入は、いつできますか？
A：月曜～金曜日および第 1 土曜日（祝日、年末年始は除く）の午後 1 時～4 時にお願いします。詳しくは、ごみの分別収集カレンダーでご確認ください。
- Q：他の市指定ごみ袋に比べて燃えるごみの袋は破れやすいのはなぜですか？
A：燃えるごみの袋の強度は、搬出いただく際は一定の強度が必要であり、野洲クリーンセンターで焼却する際には、安定的に燃焼できるようごみ袋を破碎し、ごみを拡散する必要があることから引っ張りには強く、引き裂きには弱い性質となっています。
- Q：燃えるごみ大のごみ袋の形状・容量が昨年 10 月に変わったのはなぜですか？
A：ごみ出しの際、高齢者や妊婦の方で、問題となっていたごみ袋の引きずり防止と、ごみの投入をしやすくなるため、他の自治体の実績を参考に変更しました。また、容量についても過去の統計をもとに、標準的な 4 人家族のごみの排出量を算定し、35 → 42 ℓ に変更しています。

市では、循環型社会をめざして家庭から出るごみを 12 に分別（15 種類・排出をお願いしています）。しかし、資源ごみは、正しく分別できていないと、リサイクルができないほか、かえってごみ処理に多くの経費がかかってしまいます。ごみをきちんと分別することで、もっと多くの資源ごみがリサイクルできます。もう一度ごみの分け方を見直してみませんか。

毎月第 4 土曜は 廃食油回収の日

11 月 26 日(土) 午前 10 時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近

回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課 ☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村 ☎ 586 - 1441

◆環境課 ☎ 587 - 6003、FAX 587 - 3834

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(86)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

【11月の休館日】月曜・火曜日、4日(金)・24日(木)

◆秋期企画展「近江の古墳と大岩山古墳群」
／11月27日(日)まで

◆歴史入門講座②「湖南の仏教美術」／

11月17日(木)午後2時～4時 講師…高梨純次さん(県立近代美術館)／参加費…200円(資料代)

◆まちかど博物館「小篠原を歩く」／11月19日(土)午後1時30分～※市役所本館前集合

◆弥生の森歴史公園・紅葉ライトアップ／11月18日(金)～23日(祝)午後6時～9時(入園／午後8時30分まで) ※21日(月)・22日(火)も夜間開園 主催…野洲市観光物産協会

馬形埴輪



野洲市六条字御明田の御明田古墳は、5世紀末～6世紀初頭に造られた直径約42mの円墳と推定されています。主要地方道野洲中主線の道路下の発掘調査において、この古墳の周濠から馬形埴輪と人物埴輪が各一体出土しました。

馬形埴輪は、全長71・6cm以上、高さ40cm以上で、脚部や尻尾等を欠損しています。寧ろ馬として細部まで丁寧に表現されています。頭部には本来そそり立つタテガ

ごみょうだ 御明田古墳出土の埴輪

ミと鋭い耳があるのですが、その基底部に痕跡が残っており、口の周りには下顎が大きいと作られ、轡が装着されていたものと思われます。鞍は前輪と後輪の間隔が9cmで、鞍を安定させるための紐(胸繫と尻繫)が馬体の前後にのび、胸繫の紐には刻み目を入れ、三つの丸い鈴が垂れ下がり、尻繫には辻金具が表されています。

3世紀末に成立した中国の史書『魏志』倭人伝によると、当時の日本には牛馬がいなかったことがわかります。馬具が出現するのは、4世紀後半の古墳等からですが、本格的には5世紀を待たなければなりません。

動物を表現した埴輪の中では、馬形埴輪の出土数が、犬や牛などと比べると多くなります。馬形埴輪は、古墳の墳丘等では盛装した人物埴輪や武人埴輪グループの後方に位置することが多く、埴輪の配列に一定のルールがあったことがわかっていきます。一説によると死者の権威や財力の誇

示のほかに、死者の霊が乗る物として馬形埴輪が用意されたと言われています。

人物埴輪には巫女、甲冑をまとった武人、盾を持つ人、琴などを弾く楽人、相撲の力士、鷹匠や狩人などがあります。なかでも巫女形埴輪は、その出土数が多く、葬列を表現したとされる墳丘祭祀の中心的な存在です。

御明田古墳から出土した人物埴輪は高さ37・8cmで、顔が上向きで、頭を東向きにして倒れていました。顔は頭の頂部から顎までで13・6cm。鼻は欠損しています。両腕と体部下半もありません。球形の頭部は、ソリリとしており冠や帽子を接合させた痕跡は見あたりません。両耳部は、

くぼんだ小さな穴で表されています。両耳の横には美豆良という髪を束ねて、おさげ髪のようにする痕跡が見られるので、この人物埴輪は男性と考えられます。太い首にはネックレスなどの装飾はなく、上半身は極めて簡素な作りで下半部を欠いているので、どのような職能の人物埴輪なのか、想像がふくらみます。

博物館では秋期企画展として、11月27日(日)まで「近江の古墳と大岩山古墳群」と題して展覧会を開催しています。御明田古墳の馬形埴輪と人物埴輪も展示していますので、ぜひご覧ください。

(博物館学芸員 徳網克己)



人物埴輪